

心と心をビビビと結ぶコミュニケーションのお手伝いペーパー

4

APR 2023
VOL.162

ishin-denshin

水野印刷工芸
社内報

ミデコの日々の取り組みを
知っていただくため、
社外にもお配りして
います。

みかわんこ▶



Let's コミュニケート!

おしをおしえてえ～

きおく画伯

とある街に住んでいるご近所ママさん

社長と行こう! こっそり食堂

がまごおり 町洋食の老舗

特集

命にかえて使命をはたす

戦国の走れメロス

「鳥居強右衛門」の勇気

特集

戦国の走れメロス「鳥居強右衛門」の勇氣

命にかえて使命をはたす

先月号でも紹介があった通り、弊社社内研修、通称「M研」が今年より装いも新たに社員持ち回り担当制となった。趣旨は①健康経営として心身ともに健やかな職場づくり②スキルアップ③理念の共有。これらを念頭に置き、丸一日を企画から準備、運営、タイムスケジュールから支払いまでの一切の権限が与えられるというもの。この栄えあるリニューアルした「M研」の一回目に見事くじ引きで当選した私オオコウチ、渾身の企画が「新城市小旅行」。現在、絶賛放送中の大河ドラマ『どうする家康』にちなみ長篠・設楽原をこの目で見てみようと思いついた。この歴史的な激戦地を語るとき、必ずと言っていいほど出てくる一人の足軽「鳥居強右衛門・(とりいすねえもん)」。

長篠の戦いをきっかけに日本一有名になった足軽、鳥居強右衛門の功績に触れれば何かに気づくことができるのではと考えた。一体、鳥居強右衛門とは何者であったのか、長篠城攻防戦の中で起きた鳥居強右衛門一世一代の命を懸けた決断の物語を紹介してみたい。

1575年長篠の戦い

戦国最強を誇った武田軍が大敗し、徳川・織田連合軍が勝利した歴史的な合戦である。徳川・織田連合軍勝利の裏には、一人の足軽の活躍があった。その足軽こそ今回の主人公「鳥居強右衛門」その人である。



▶長篠城址へ向かう道中で掲げられている看板からも城主を差し置いて、新城市では強右衛門の方が有名ようだ

【第一刻】足軽の強右衛門

1575年武田信玄の若き後継者、武田勝頼は徳川方の城である三河国・長篠城を攻めていた。勝頼は15,000人もの大軍で城を囲んだ。対する長篠城の城兵は500人ほどだったという。城主の奥平信昌は籠城により武田軍に対抗しようとしていた。長篠城は周囲を川に囲まれた防御力の高い城、難攻不落の城であった。そんな中、武田軍が放った火矢により兵糧庫は焼失してしまった。潤沢な兵糧による長期籠城戦を想定していた長篠城は絶対絶命のピンチに陥ることになる。「一刻も早く援軍の要請を！家康様のいる岡崎城に使者を送るぞ！誰か行ってくれる者はいないか！」信昌必死の頼みにも静まりかえる城内。確かに武田軍に完全包囲された現状で城から抜け出すのはどう考えても不可能に近かった。「オレが行きます！」そんな中、一人の足軽が名乗り出る。その人物こそ鳥居強右衛門であった。強右衛門は身体こそ屈強だが、とりたてて武功のない目立たない存在だったという。こうしていよいよ長篠城の命運をかけた大戦が始まる。



▶武田勝頼の勢力伸張図



▶長篠城本丸跡地は広大な広場となっている。見どころは土塁。これだけきれいに残った土塁は全国的にも貴重な。

【第二刻】岡崎城へ

深夜、強右衛門は信昌から預かった手紙を服に縫い、下水から水に入り川へと進んだ。川べりには武田の兵、川面には鳴子の罿(触れると音が鳴る仕掛け)。わかってはいたが、かなり厳しい状況だ。それでも強右衛門は真っ暗な川底を慎重に泳いでいく。その距離約4キロ。そして強右衛門は無事に武田の包囲網を突破。夜が明けた頃、雁峰山(かんぼうやま)から狼煙を上げ、脱出に成功したことを城内に伝えた。強右衛門が無事に城外に脱出できたことに城兵らは歓声を上げた。第一関門突破の次なる目的地は家康のいる岡崎城、その距離約65キロ。武田の兵に気をつけながら足場の悪い山道を慎重に進んでいく。決して楽な道のりではなかったはずだ。それから半日後、強右衛門は日が沈む前に岡崎城に辿り着いた。この時、強右衛門6歳。この歳でこの距離を休むことなく、汗まみれになって見事走破。こうして強右衛門は手紙を家康に届けることに成功する。



▶鳴子の罿を慎重に進む強右衛門：国立国会図書館デジタルコレクションより

【第三刻】長篠城へ

家康は強右衛門が到着する前に長篠城の窮地を察知しており、事前に織田信長に救援を依頼していた。すでに総勢38,000人の大軍で長篠城へ向かう手筈が整っていたのだ。家康と信長は強右衛門をねぎらい休むようすすめた。しかし「一刻も早く城に援軍を知らせたいのですぐに戻ります！」と帰城を決意。こうして強右衛門は休む間もなく長篠城へと引き返した。疲労困憊だったはずだが、援軍がもうすぐ到着するという高揚感が強右衛門の足を動かしたのかもしれない。夜通し走り抜き、翌日の朝には長篠城近くに辿り着いた。わずか一日ほどで往復130キロを走破したことになる。恐るべき体力と精神力だ。そして強右衛門は雁峰山で再び狼煙を上げる。狼煙に気付いた城内は歓喜した。一方、その頃、武田の陣では度々上がる狼煙とそれに呼応する長篠城の歓声、それを不信に思った武田勝頼は警戒を強めていく。

【第四刻】強右衛門の選択

強右衛門は再び長篠城へ入ろうとしていた。川底から城に帰るには夜まで待たねばならず、それまでの休息場所を探そうとしている時のことだった。背後から低い声がする。振り返ると数人の武田の兵が槍を構えていた。長篠城目前にして強右衛門はついに武田兵に見つかり捕らえられてしまう。武田軍の取り調べにより、強右衛門は狼煙を上げたのは自分であること、援軍の確認に行ったこと、すでに徳川と織田の大軍が近づいていることを吐かされる。徳川と織田の大軍が迫っていることを知った勝頼は一刻も早く長篠城を落とす必要があった。そこで武田軍は強右衛門に「長篠城に向かって“援軍は来ない”と言えば助命の上、その後の身も保障する」と取引を持ちかける。強右衛門に虚偽の報告をさせることで、城内の士気を下げ、開城を目論んだのだ。強右衛門は武田方のこの取引に快諾した。



▶鳥居強右衛門磔死の碑。現在は木が生茂って見えないが、当時は長篠城の本丸から強右衛門の姿がしっかりと見えたのだろう。



【第五刻】磔

そして城の前に引きずり出された強右衛門は味方に向かってこう叫んだ。「援軍は来る！すぐそこまで来ているぞ！」「あと2、3日だ！もう少しで援軍が来る！この戦、勝てるぞ！」強右衛門は武田軍の条件を反故にしたのだ。「この裏切り者め！」激怒した武田兵によって、強右衛門はその日のうちに磔にされて命を落としたが、強右衛門決死の呼びかけにより援軍が近いことを知った城兵の士気は上がり、長篠城は援軍が到着するまでの2日間を耐え抜いた。そしてついに待望の強力な援軍が到着する。

【第六刻】勝利

強右衛門の活躍もあり、1575年長篠・設楽原の戦いは徳川・織田連合軍の圧勝。武田軍の完敗で幕を下ろした。強右衛門がいなければ、もしかすると歴史は大きく変わっていたかもしれない。合戦後、強右衛門の壮絶な最期を知った信長は立派な墓を建て、その忠義心を称えたという。そして奥平信昌は強右衛門との約束を守り、彼の息子・信商(のぶあき)を召し抱えた。その後、信昌の四男松平忠明(ただあきら)に仕え、子孫は代々強右衛門を名乗って、松平家に仕えている。



▶織田・徳川連合軍と武田軍が激突した設楽原戦場跡。連合軍が構築した馬防柵が再現されて当時の雰囲気を感じることができる。



【第七刻】鳥居強右衛門から学んだこと

足軽という低い身分でありながら、歴史に残る大仕事を成し遂げた鳥居強右衛門。そこに身分や経歴、肩書などは一切関係がない。命を懸けて「何かを成し遂げよう」と行動したとき、その行動は多くの人々の心を動かし、さらには世の中を動かすくらいことができている。彼の勇気や使命感は決して誰にでも真似ができるような簡単なものではないが、それがたとえほんの少しであってもいいから、彼の行動は見習いたいと思う。「人が自分の命よりも重きをおくものは何か」強右衛門の姿は味方だけでなく、敵であった武田兵の心も動かしたという。戦国の走れメロス「鳥居強右衛門」、彼こそ歴史に名を残すに相応しい真のヒーローだ。

【追記】

大河ドラマ『どうする家康』で鳥居強右衛門役を岡崎体育さんが演じることが発表されました。一体どんな強右衛門を見せてくれるのか、今から楽しみでなりません。(文責：大河内)

ミデコラム

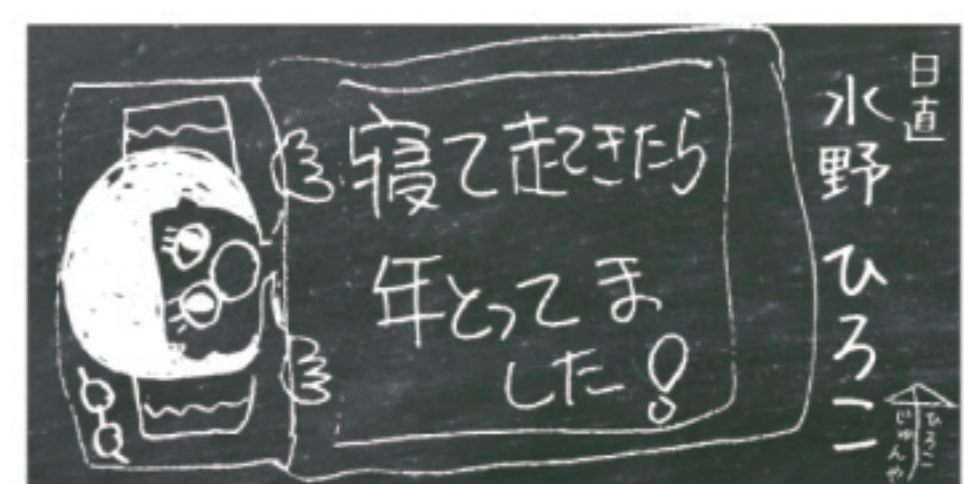
今月のにわか編集長
大河内和幸

にわか編集長とは!?

ishin-denshinの編集長は持ち回り制。特集ページの執筆や、みんなのコラムにコメントをつけたり小コーナーの原稿をまとめるのが主な仕事です。



ミデコ社員ひとりひとりが、それぞれの個性を活かしたコラムを掲載!



第128回

ヒロコおすすめ犬グッズ!

犬を飼い始めてから、9か月。いろんなものを買った。そして、その多くは愛犬によって破壊された。リードももう4本目。歯がかゆいのかいつのまにか噛みちぎり、常に予備のリードを用意しなければという感じ。中には「いらなかったなあ」と思うものも。子犬のころ家の中で自由にさせていたので、あそこにもここにも食べたら出るよねというものが転がっており、そのため犬用トイレを3つも買ってしまった。とりあえず一つは現役で使うことなく家の中に置いてある残りの2つはベランダに。いやあ無駄でした。ほしい方います?

そんな数々の犬用品ですが、自分の中でこれ絶対イイと思ったものがある。その名もエチケットクリップ。犬の散歩に行くとき途中からビニール袋に入ったお土産を持たなくてはならない。そこで、このエチケットクリップ。プラスチックでちょっと犬をイメージした形でビニール袋をちょいっとひっかけることができる。このクリップをお散歩カバンなどにつけておけばビニール袋をつまんで持って帰らなくてもいいのである。

しかし私はこのお店に一言助言したいのである。このクリップとカバンをつなげるように細いマジックテープがついていたのだが細いので購入して3日後にクリップとお土産を道に落としてしまったのである。家に帰って気づきあわ

てて散歩コースを戻り、無事回収できたのではあるが。

その後、私は単語帳などについてるリングとマジックテープを交換したのだ。この方法でその後落とすこともなく現在に至る。これ定価500円します。高いといえば高いのですが愛犬の散歩にはおすすめです。

にわか編集長コメント

実家暮らしの頃は常にワンコがそばにいる生活でしたので、毎日お世話をする大変さは多少理解できるつもりです。とはいえ、ほとんど何もしなかった記憶しかないような…。でも一人残して出かけてしまえば寂しそうな表情をするし、帰ってくれば大騒ぎするほどの喜ぶ姿を見せてくれる。だから可愛いし、愛情をそそぐのでしょう。それはそうと今では随分と便利なものがあるんですね。自分の頃とは大違いで驚きばかりです!



第128回

19490419-20230321

母は「めんどくさいことと気を遣うことはキライ」ときっぱり言い放つ、とにかく陽気で楽天家で好奇心旺盛女子だ。考えるより前に行動するタイプで、なんやかんややらかした後で父に怒られることも多々あったが、「あんな性格だったら、もっと楽に生

きたなあ」と羨ましく(?)思ったものだ。なので、5年生生存率が著しく低い病気に罹患していると判明した時も私に抱きついて

「癌だっ—。やだな—も—」と実に悲壮感のないカミングアウトだった。それから約2年。治療を頑張りながら、調子のよい時には大好きな買い物やおでかけに娘(私)を運転手としてしたがえて楽しむ様子に、体調の浮き沈みはありつつも「なんとかこのまま寿命までイケるんじゃないか」という淡い期待が家族の間にはあったと思う。

が、孫たちがそれぞれ卒業だ就職だとバタバタする頃になってがくと悪化。ただでさえ吐き気があって食べられないところに飲み込む時に違和感や痛みがある、と脱水症状をおこして入院。翌日の午前中には「ごはんにかける生海苔があると食べやすいからもってきて」との連絡を最後に危篤状態に陥ってしまった。

名古屋の長男(私の息子)が「明日の午前中には行くから。待っててよ」とスマホ越しに耳元で言ったからなのか荒い呼吸の中、母なりに頑張って心臓を動かしてくれていたけれど 17:45 最後は眠るように本当に穏やかな末期だったと思う。連絡がつかなかった練習試合の次男、全部終わってスマホを見たのもちょうど17:45だったそう。

多少の未練や無念はあったと思うけれど、最後は「あ—しょうがないか—」と思って逝ったのではないかな…と思えるような。母らしい立派な最期でした。

母の亡くなったのが祝日・春分の日だったので、「娘がすぐに来れるようにお休みの日にしたんじゃない?(実家は自営業なので曜日関係ない)」と親戚衆に言われたが

きおく画伯

第81回

お題 ジオレママ

描いた人 社長



当てに行って辛うじてサザエさんに似ていると言えなくもない仕上がり。イラストだけで分かった方は、今年度はきっと勤の冴える一年になるでしょう…



「でもお葬式の日、うちの長男大学の卒業式なんだよ…」という「あ—…」とw。多分母も「うそ!ごめん浩ちゃん…まあ最後で許して!」って言うてるだろう。

ネイティブ・アメリカンに『あなたが生まれたとき、周りの人は笑って、あなたは泣いていたでしょう。だからあなたが死ぬときは、あなたが笑って、周りの人が泣くような人生をおくりなさい!』

という私の好きな言葉がある。ところどころおみそはついたけど、まあまあ母はい線いっていたんじゃないかな。

そして、春分の日は「此岸と彼岸が最も通じやすい日」なんだとか。だからってそんな駆け足ですべりこまなくてもよかったのに。

ありがとう。来世があるならその時はまた娘に産んで頂きたいと思っています。



「私の最高傑作!」とのたまった次男を溺愛(遺品の財布に次男の写真が入っていました) ←乙女か

にわか編集長コメント

前田さんとお母さんとの仲の良さが伝わるだけにとても心が痛みます。自分の父親も昨年重い病気にかかり、治ったと思ったら今度はひどい転び方をして大腿骨を骨折したりするなど本人はもちろん、家族もいろいろと振り回された一年でしたが、あれ

これ考えるきっかけになりました。幸いなことに両親二人ともまだ元気になっておりますが、これまでろくに親孝行などすることなくここまでできてしまったので、少しでもできることはしてあげたいと思うばかりです。

第129回

初代ソアラ

先日、トヨタのヴィンテージクラブ by KINTOにて1982年式初代ソアラをレンタルしました。両親に温泉旅行に招待する際のサプライズとしてレンタル。旅行のテーマが昭和でしたので、ノスタルジーに浸れる車と宿をチョイスしたのですね。しかし、当日は長野県内はみぞれ。ソアラは夏タイヤのため高速にのれず断念。結局、ソアラは実家に置いて父親の車で宿へ向かいました。結果的に残念ではありますが、そこそこの距離を乗れた(一人で)ので、まあ元はとれたと納得しております。

実家まで往復400km超を走りましたが、走り出し早々にハンドルの重さと少し反応が遅れる操舵に困惑しました。まさに未体験ゾーン。今時の車の感覚で舵を切るとワンテンポ遅れて曲がるような感じ。ただの右左折も要注意でした。ハンドルの重さはある程度速度が出ていればさほど苦ではありませんが、駐車時など低速時は重めで力がいらいます。送りハンドル、打掛けハンドルとなってしまいます。



高速道路にのると100km/h到達で電子音による警告。昭和車独特の体験。これはこれで速度超過予防に効果ありそうです。警告音が鳴っていると悪いことしているような気がしてアクセルを踏み込むのに躊躇します。100km/hを超えて走っているとハンドルがブルブル揺れているような感覚もあり、電子音がならずとも飛ばそうとは思いません。パワーには余裕があるので、けっこう速度自体は出そうな感じですが、自分自身の恐怖リミッターが作動するため、速度超過せずに済みそう。

まだドアミラーが規制されていた時代の名残で、フェンダーミラーが装備されており、慣れてくるとフェンダーミラーの方が視線移動が少なく済み運転しやすいことに気がきました。ミラー位置で車幅が分かりやすく、車両感覚をつかみやすいのも大きな利点です。Aピラー付近の死角も減るので、事故防止にも良さそうです。(フェンダーミラーは歩行者との衝突時の被害軽減の観点で最近タクシーなどの一部車種以外では採用されないのだからか…)

また、細めのピラーや広く見やすいリアウインドウなどで視界は良好。開放感もあってドライブを楽しめます。最近の車はピラーが太いのが多く、とくにCピラーが極太で斜め後ろの視界が絶望的な車種もけっこうありますので、このあたり視界の良さはありがたいです。

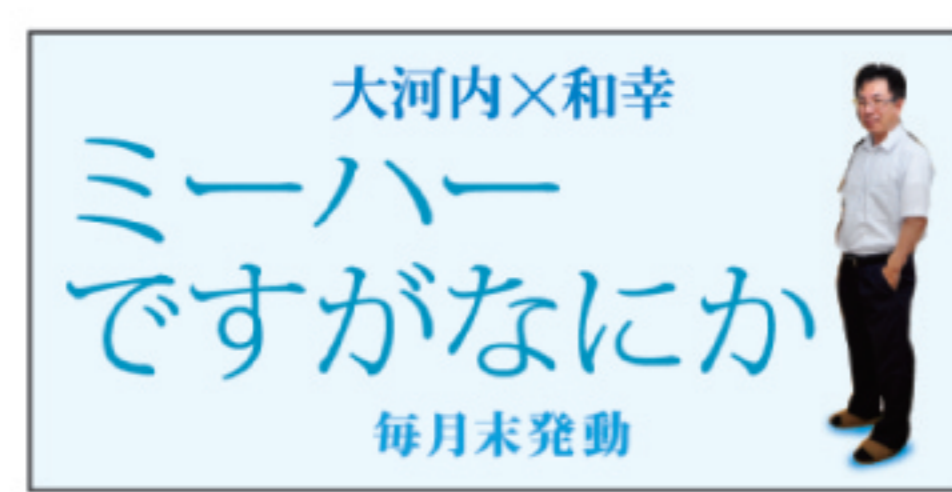
この車はDOHC直列6気筒エンジンで、始動時から良い音を聞かせてくれます。踏み込めばスポーツカーのような快音になります。全体的には良くも悪くも機械であることを感じさせるフィーリング。ドアの開閉り音も精巧で重厚感ある感じ。ただなかなか閉まらないので、力を入れてバンツ！と閉める必要はあります。

今回はただ一人で乗っただけでしたが、昭和の車文化を学ぶ良い機会でした。なんせ41年前の車に乗れるとは思っていませんでしたので、それだけで感動です。



にわか編集長コメント

うわぁ〜ッ、懐かしい。そうそう、昔はこのような角張ったクルマばかりでしたね。40年の時を経て、素晴らしいものを見せてもらいました。是非自分も乗ってみたいです。時速100kmを超えて鳴る電子音しかり、フェンダーミラーしかり、自分が免許を取った頃のことを思い出しました。それにしても定期的に親孝行している山本さんにはアタマが下がります。自分も見習わなくてはっ！



第129回

悪いのは一体誰なのか？

「半沢直樹」シリーズで一躍有名になった池井戸潤大先生のベストセラー小説「シャイロックの子供たち」。池井戸先生が「ぼくの小説の書き方を決定づけた記念碑的な一冊」と明言し、原点にして最高峰とも言える原作が満を持して初映画化された。「空飛ぶタイヤ」「七つの会議」「アキラとあきら」に続く四作目となり、ミーハーの意地と誇りにかけて今回も映画館に足を運んで堪能してきた。WOWOWですでにドラマ化されていたということだが、残念ながらWOWOWとは無縁故、まったくのノーマーク。映画版は小説ともドラマとも展開が異なり、独自のキャラクターが登場するオリジナルストーリーらしい。注目のキャスト陣容は主演に阿部サダヲ大先生をはじめ、上戸彩、玉森裕太、柳葉敏郎、杉本哲太、佐藤隆太、柄本明、橋爪功、佐々木蔵之介と日本を代表する超豪華キャストが勢揃いした。

今作も池井戸先生お得意の銀行が舞台だ。東京第一銀行のとある支店で起きた現金紛失事件。お客様係の西木課長代理(阿部サダヲ)は、部下の愛理(上戸彩)と田端(玉森裕太)とともに事件の真相を探っていく。一見平和そうに見える支店だが、そこには曲者だらけの銀行員ばかり。出世コースから外れた支店長・九条(柳葉敏郎)、超パワハラ上司の副支店長・古川(杉本哲太)、営業のエースだが過去のお客にたかられている滝野(佐藤隆太)、調査に訪れる嫌われ者の本店検査部・黒田(佐々木

蔵之介)。そして一つの真相に辿り着く西木。それはメガバンクにはびこる、とてつもない不祥事の始まりに過ぎなかった、というのが大まかなあらすじだ。

題名の「シャイロック」とはなんぞや。まずはそこからだろう。答えはシェイクスピアによる戯曲「ヴェニスの商人」に登場するユダヤ人だ。強欲な金貸しとして知られ、金を返せなくなった相手に対し、金の代わりに「身体肉1ポンド」を要求する。しかし、裁判官は「身体肉1ポンドを得ること」は認められたものの、一滴たりとも血を流さないことを条件にしたため、シャイロックは何も得ることができずに失意のまま法廷を去ることとなったという話なんだとか。映画の冒頭では「シャイロック」が何を指すか、そして「金は返せばいいってもんじゃない」というフレーズを深く印象付けていく。

今回、原作もドラマ版も一切見ることなく、なんの先入観も無く純粋に映画を楽しむことができた。あの不朽の名作・半沢直樹を思い起こさせる「基本は性善説。だが、やられたら倍返し！ってね」囁くようにこの名言をサラッとと言える阿部サダヲ演じる西木が、部下思いで正義感が強く、とにかくカッコいい。堺雅人大先生とはまた一味違う阿部サダヲの倍返しも見どころの一つ。半沢のように完膚なきまでに叩きのめすものとはまた違い、飄々とジャブを打ち続けるような西木の倍返しもある意味新鮮だった。さらに現金を放置したり、現金が紛失して防犯カメラが無かったり、現金が見つからないまま行員を帰したり、ATMのお金を使い込んだり、監査で弱みを盾にしてもみ消したりなど、部外者でもホンマかいな？とツッコミたくなるようなシーンも満載だったが、実際にあるであろうATMのシーンや普段決して見ることのない銀行の知られざる裏側を社会見学しているかのように垣間見られただけでも興味深かった。「1円足りなくても見

つかるまで帰れない！」などという噂を聞いたこともあったが、そんなところまで探すのかというシーンにも正直なところ驚いた。さらにこの作品内、とにかく厄介ごとで溢れかえっている。到底無理なノルマ、どこでもいつでも怒鳴り散らす鬼上司(ある意味、この副支店長役の杉本哲太先生の演技が一番印象に残っていたりする)、人間関係の嫌がらせ、銀行の金をネコババする行員、ダミー会社を経営する詐欺師、裏では他人に言えない不正をするエース行員、パワハラ、精神に異常をきたす同僚、自己保身に走る上役など、まさに問題のオンパレードだ。主人公・西木も家庭内でトラブルを抱えており、銀行内での不正を暴こうとしていた彼自身も決して聖人君主ではなかった。人間、誰にも魔が差す瞬間はあるもので、そんな瞬間が上手く表現できていたように思う。西木しかり、土壇場での意外な展開には驚かされた。

総じてどの出演者も演技が素晴らしかった。特に阿部サダヲ演じる西木という人物は一体何者だったのかが最後までわかりづらく、阿部サダヲの陽気な演技の裏腹なのか、逆に不気味さを感じたラストシーンだった。やはり阿部サダヲ大先生の演技力が物を言った作品だったということか。「本当に悪いのは、お金を借りたのに返さなかった方じゃないのかなあ？」冒頭、ヴェニスの商人を観劇した女性の感想がよみがえる。同感、自分も素直にそう思う。大小あれども誰の人生にも起こりうる曖昧さ故の脆さへの問題提起。確かに原点にして最高峰と言われる所以がここにあった。

にわか編集長コメント

阿部サダヲも良かったが、やはり杉本哲太の鬼上司っぷりがいまだにアタマから離れられない。とにかく街中に聞こえるくらいの大声で怒鳴り散らし、わめき、叱りつけ

る。今どきこんな上司がいたら大問題な時代だけれど、昭和の頃にはもっと強烈なキャラも結構いたんじゃないのかなと思ったりする。池井戸ファンとしては、また機会があればぜひ原作も読んで、映画版との違いを楽しんでみたいとも思っていますっ！



第128回

中日ドラゴンズ

今年のドラゴンズは強い！なんといってもWBC日本代表に勝った唯一のチームだ。その試合で投げた小笠原の気迫は開幕戦を意識した調整というより、高校球児の甲子園決勝戦並の気迫を感じた。打っては新外国人アキーノの一発に心が騒いだ。新人の田中、福永も即戦力だ。特筆すべきは田中の俊足だ。バッテリーが盗塁を警戒する中、1塁走者の田中が走らないと見せかけ、捕手から投手に返球する隙を狙って2塁を陥れる、いわばディレードスチールである。(YouTube田中幹也 ディレードスチールで検索)ぜひシーズン中早い段階で魅せていただきたい。それは悪い言い方をすれば、人を欺き、塁を盗むセコいプレーである。(スポーツは欺く行為は賞される。笑)こんなプレーヤーは今までドラゴンズにはいなかったのだ。どんどん欺いてほしい。これがプロスポーツの醍醐味の一つでもあると思う。

もう一人個人的に期待している選手はブライト健太。彼は昨年のドラフト一位指名選手であるが、一度も1軍でプレーすることはなかった。しかし！キャンプ終盤に

ホームランを連発し1軍に呼ばれた。身体能力は高いし、何より彼の明るいきゃらはドラゴンズにはないものがある。こちらもぜひ注目していただきたい。

自分の中ではキャンプインから開幕するまでの期間がゴールデンシーズンである。この時期は旅行に出かける前日までのようにワクワクが止まらない状態が続く。毎日のドラゴンズ情報は欠かせない。ここ10年はそのような時代が続いたがそれも今年で終わるような気がする。この記事を書きながらすでにワクワク状態なのである。笑笑笑が止まらない……。

にわか編集長コメント

物心ついた頃からのG党ではありますが、ゴジラ松井がメジャーへ行ってしまったからはめっきりジャイアンツ愛も薄れてしまいました。代わりに愛知県内には、ありとあるゆるメディアでドラゴンズ推しが激しいせいか、最近ではすっかりD党になりつつあります。今年もせめて一回くらいはバンテリンドームでチャンステーマに乗っかって、声援をおくりたいものです。M社長の上機嫌が少しでも長く続くよう、ドラゴンズの快進撃を期待するばかりですっ！



今月のお題

大河ドラマ「どうする家康」で気になるまたは注目している登場人物は？



松重豊 石川



松山ケンイチが やさしい優



武田信玄公



鳥居 強右衛門



鳥居元忠 (菅原 珠良氏)



今川真



洋食屋 デジャヴ

with 山本・足立

以前、仕事でお世話になった方から「ここ美味しいんですよ」と聞いて以来数年、ずっと気になってはいたものの行け

ていなかった洋食屋さん。行って納得の美味しさと、古民家を改装したと思しき風情ある雰囲気で大満足です。メニューにはハンバーグやオムライスが並び、出てきたハンバーグ定食はお箸でいただくという気軽さも◎。付け合わせの小鉢もめっちゃう美味しくて食べ終わるのが惜しいぐらいでした。またぜひ行きたい、素敵なお店です。文・足立

おだちペンツ のびのカフェ

file.81 2023.3.12 Sun.

3つのハンドサイン、
なみだるな〜と
思っていたら
店名の「オニワ」を
表現しているんですね。
オシレ…!!

店内にはキッズスペース、外には遊べるお庭と
たまごブランコのお席もある、子どもも大人も大喜びの
ステキカフェです♡

アメリカンコーヒー
セット ¥450

完熟パスタの
パスタサラダ ¥660

OPEN
8:00-18:00
CLOSED
月・第2・4火
台岡崎市
洞町長沼
5-27

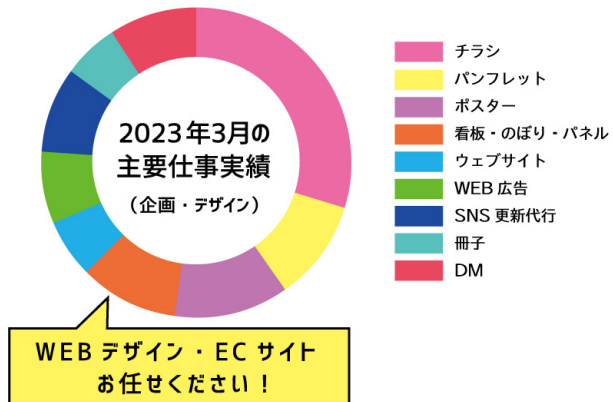
にわか編集長
コメント

まさか岡崎の洞にこんなお洒落なカフェがあったとは…。まったく知らなんだ…。元岡崎市民として恥ずかしい限りです。ブランコなるものにはもう何十年の間、乗った記憶などありませんが、子どもたちも楽しめそうでファミリー層にはうってつけの新感覚のカフェと見受けました。中々、オッサン一人で行くにはかなりハードルが高そうですが、近くを通ったときにはちょっと覗いてみようかなっ!

今月の 八百万百景

桜満開のとよおか湖公園
撮影者：山本兼佑

桜満開のとよおか湖公園です。桜、桜、桜…、想像以上の桜に脱帽です。これは毎年訪れたいです!



今月の
にわか編集長
編集後記も持ち回り制!

新型コロナ対策としてのマスクの着用が個人の判断に委ねられて3週間ほど経ちました。個人的には花粉症シーズン真っ只中ということもあってまだまだマスクは欠かせません。各地でちょうど桜も満開となり見頃を迎え、桜の名所は大勢の人で賑わっているようです。今年は4年ぶりに行動制限もなく、マスク無しで花見を楽しむ人たちの姿も見られました。まだまだ完全にコロナ前に戻ったとは思いませんが、少しずつ前に進んでいる感もあります。感染対策に注意しつつも人と会ったり、外出したりする機会がもっともっと増えてくるといいなと思うこの頃です。

大河内 和幸